



Pick Up News

今号も大学院特集をお届けします。大学院での学びは、学部までとは大きく異なります。「知識や技能を身につけるために勉強する」段階から、自ら課題を見つけて「学ぶ」段階へと進化します。興味や関心をさらに掘り下げ、専門知識を深めることで将来の目標がより明確になり、進路選択の重要なステップとなります。研究や設計活動を通じて人間力を高め、社会で求められる技術者・設計者・研究者として成長していくための道でもあります。本学科の大学院進学率は学内でも高い水準にありますが、それでも約15%程度。理工系大学全体の平均である30%前後と比べると、まだ低い状況にあります。だからこそ、できるだけ早い段階から進路の選択肢として「大学院」という道を意識してみてください。先輩院生や教員に直接話を聞いてみることも、きっと良いヒントになるでしょう。さて、後期が始まりました。皆さんそれぞれに夏休みでリフレッシュし、新たな気持ちで大学に戻ってきたことと思います。後期は卒業・進級に関わる大切な時期です。前期の学びを振り返りながら、次の一歩につなげていきましょう。

大学院特集: 「学び」を、もっと自由に。未来をひらく大学院進学 ~ 大学院生の活動 (学会発表) ~

先月号に続き、今号もテーマは「大学院特集」です。今年度は21名もの学生が建築学専攻に進学し、定員を大きく上回る結果となりました。大学院は年々活気を増し、ここ数年は進学希望者がじわじわと増え続けています。その背景には何があるのでしょうか。「もっと深く学びたい」。「社会に出る前に自分の専門性を磨きたい」。先月号では、そんな思いから進学を決めた学生たちの「リアルな声」を紹介しました。今号では、現在在籍している大学院生たちの活動を取り上げ、進学という選択が持つ意味をさらに掘り下げていきます。

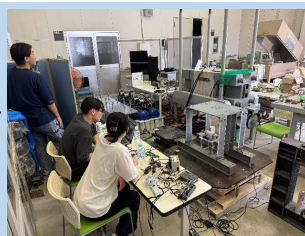
2025年9月9日(火)から12日(金)にかけて、九州大学を会場に開催された「日本建築学会大会」において、本学大学院生が多数参加し、日頃の研究成果を発表しました。日本建築学会大会は、建築分野における全国最大規模の学術集会であり、研究者・技術者・学生が一堂に会し、最先端の研究や技術について活発な議論が交わされます。本学の大学院生たちは、各分野において日頃の研究活動の成果を発表し、他大学や研究機関の研究者たちと意見を交わしました。発表は真剣な雰囲気の中にも熱意が感じられ、聴講者から多くの質問やコメントが寄せられるなど、充実した内容となりました(紙面の都合上教員の発表は除く)。

1. 慣性質量効果を有する液流ダンパーを組み込んだ縮小制振骨組の振動応答解析(その1)力学モデルの精度検証
2. 慣性質量効果を有する液流ダンパーを組み込んだ縮小制振骨組の振動応答解析(その2)解析パラメータが骨組の応答特性に与える影響
3. あと施工アンカーの引張耐力に対してひび割れが与える影響の評価方法に関する検証その1ひび割れ試験機の概要および接着系アンカーを対象とした載荷試験
4. 超高層ビルの中間避難階・避難区画の機能と避難計画
5. 定期報告書に基づく防火設備の維持管理と作動信頼性の実態調査
6. 映像解析によるヘルスモニタリングシステムの基礎的研究(その12)変位測定の間略手法の提案
7. 映像解析によるヘルスモニタリングシステムの基礎的研究(その13)実装時における適応度の研究
8. 木質構造における柱梁接合金物による割裂破壊および簡易補強法の提案(その3)四点曲げ実験の実験計画
9. 竹集成材による既存建築物の補強に関する研究(その1)木質系梁への適用可能性
10. 仙台レクリエーション農園に関する基礎的研究
11. メインストリートに沿って建つ建物の隙間の構成と有効性に関する研究 宮城県仙台市3つの通りを対象として
12. 仙台の主要通りの歩道に表出する構成要素に関する研究
13. 屋台の公共性の再編 まちの本棚/家具の屋台
14. 会津中街道の集落における茅葺民家の外観と間取りの特性
15. 文献記述にみる「マタギ」の実態とその集落の構成要素に関する研究
16. オーフスと盛岡におけるオープンスペースの活用手法とその実態に関する研究

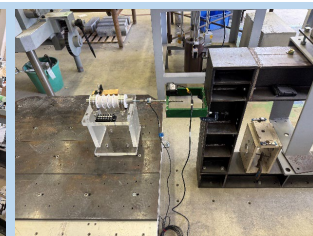
写真は日本建築学会に参加した大学院生
九州大学 伊都キャンパス



Pick Up Lab. 畑中研究室では、「制振」「木造」「防災教育」の3つを柱として研究を進めています。制振や木造に関する研究では、車に使われている振動エネルギーを電気に変えるリニア発電の仕組みを応用し、木造建物を対象とした新しいセミアクティブ制振装置の開発に取り組んでいます。今年度は、装置そのものの特性を確かめる要素実験や、建物に組み込んだときにどのように揺れを抑えられるかを検証する振動台実験を行いました。実験は一人ではできない作業も多いため、研究室のメンバーが協力し合い、意見を出し合って工夫しながら取り組むことで、研究だけでなくチームワークの大切さも学んでいます。



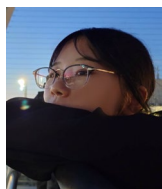
振動台実験の様子



開発中の制振装置

Pick Up Student

私は工業高校のインテリア科から、建築に興味を持ち、東北工業大学へ入学しました。工大の建築学部の魅力は、できない人でもしっかりサポートしてくださるところです。普通の大学なら、できない人はそのまま、できない人なりの力で社会に出て行くでしょう。しかし工大には、物理・数学でついていけない人に補習をしてくださる先生や就活・社会人マナーを必須科目として教えてくださるマイナビの方々、CADソフトや構造計算に強い非常勤の先生など、学生の私たちを支えてくださる存在が本当にたくさんあります。大学生活も折り返しを迎え、大学3年生として、改めて多くの方々への感謝を忘れず、自分の進路と真剣に向き合い、日々前身していきたいです。

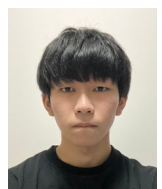


3年 谷田 任さん
宮城県工業高校 出身

Pick Up Student

私は普通高校出身で建築科目の知識はほぼありませんでしたが、工業高校出身の生徒に設計や模型製作についてのアドバイスを買い授業や課題に取り組みました。大学の講義は、一コマコマが新しい学びの連続で楽しく、モチベーションの維持につながっていると感じています。

また、私は大学のオープンキャンパスや学部説明会など今まで縁のなかったことに参加することができました。これも様々な事に挑戦できる環境があるおかげだと実感しています。大学での貴重な時間を無駄にしないよう、これからもできることから地道に取り組んで自身の成長に繋げていきたいです。



1年 小國 叶統さん
釜石高校 出身